

北はりま定住自立圏形成協定調印式 來住市長あいさつ要旨

- 西脇市と多可町が、北はりま定住自立圏の形成協定に調印し、両市町が協調して新たなまちづくりを始める第一歩を記すことができた。
- 両市町においては、通勤・通学・住民交流・産業などの住民生活は、これまでから市町の境界を越えた、つながりのある地域である。
- 定住自立圏の形成は、こうした深いつながりをもつ自治体が、互いに協力することで、便利で、より魅力的で、“いつまでも住み続けたいと思える地域づくりをすること”である。
- 行政の枠組みを越えて、両市町が一体となって、“地域・ふるさとづくり”を進めようとするのが定住自立圏の理念であるといえる。
- 今後は、施策・事業の検討に当たっては、発想の段階から両市町で共通の理念形成が必要であり、協定項目にとらわれることなく、柔軟に対応していかなければならない。
- 人口減少・少子高齢化の進行と、地域経済の低迷により、地方自治体は厳しい財政運営を迫られている。
- 一方、市民ニーズは多様化しており、行政課題は山積している。
- こうした中、一自治体でのフルセット形の行政展開は限界が来ており、近隣市町との連携と役割分担の下、住民が安心・快適に暮らせる地域づくりを進めることが必須となっている。
- 同時に、西脇市・多可町独自の地域特性と地域資源を活かしながら、個性のあるまちづくりに取り組んで行ければと願っている。
- これまでから西脇市と多可町で共同してきた、ごみ処理、消防、斎場など、多くの固定業務においても、柔軟な発想で更なる拡大を願っている。
- 形成協定の締結は取組業務の限定を意味しているものではなく、これを基盤として圏域全体の発展を目指す第一歩である。
- 住民の多くは行政界を意識せずに日常生活を送っている。行政も行政界を越えられる施策理念を高めることが求められている。
- 西脇市は定住自立圏の中心市として、全力で取り組んでいくことをここに誓う。